

モニタリング調査結果の一覧

海域	項目		目標値	現状値 ^{※1} (平成26年度)	モニタリング結果 (平成29年度)	モニタリング結果 (平成30年度)	参考ページ (括弧内は資料編)	
博多湾全域	環境基準 達成率	COD		62.5%	50.0%	37.5%	p 15～20 (p 5, 7～18)	
		T-N	100%	100%	100%	100%		
		T-P		100%	100%	100%		
博多湾全域	赤潮発生件数		現状値より 減少	8件	3件	2件	p 21 (p 19)	
岩礁海域	透明度		現状維持	2.4～6.2m ^{※2}	2.5～6.9m ^{※2}	2.5～8.3m ^{※2}	p 25 (p 20)	
	藻場の造成箇所数		現状値 より増加	1地区	1地区	1地区	p 24	
	海藻類の種数	今津	現状値より 増加	63種	58種	55種	p 26 (p 21～22)	
		能古島		53種	49種	49種		
		志賀島		54種	56種	57種		
	藻場で生息する 稚仔魚等	宮浦	継続して 確認	-	46種	49種	p 27 (p 23～28)	
		大岳			(唐泊)54種 (小戸)34種	51種		
西戸崎					42種			
干潟域	和白干潟の 干潟生物	種数	現状維持	13～38種 ^{※3}	13～43種 ^{※3}	14～41種 ^{※3}	p 33 (p 29～36)	
		個体数		838～ 8,426 個体/m ² ^{※3}	1,268～ 22,993 個体/m ² ^{※3}	979～ 6,671 個体/m ² ^{※3}		
		湿重量		48.2～ 1,748.61 g/m ² ^{※3}	199.29～ 1,388.65 g/m ² ^{※3}	15.57～ 1,879.89 g/m ² ^{※3}		
	カブトガニ	産卵数	休憩所前	現状維持	11卵塊	20卵塊	25卵塊	p 35～37 (p 37)
			瑞梅寺川・ 江の口川河口		27卵塊	35卵塊	25卵塊	
		幼生の 確認 地点数	休憩所前		25箇所	45箇所	55箇所	
			瑞梅寺川・ 江の口川河口		11箇所	24箇所	26箇所	
		亜成体の個体数			29個体	27個体	56個体	
	成体の個体数		23個体	42個体	76個体			
	室見川河口 干潟のアサリ	稚貝の個体数	現状値より 増加	2,765.8～ 3,397.5 万個体 ^{※4}	12,632.5～ 36,334.5 万個体 ^{※5}	1,743.4～ 25,381.2 万個体 ^{※6}	p 40～44 (p 38～43)	
		成貝の個体数		1.6～ 32.9 万個体 ^{※4}	288.9～ 767.6 万個体 ^{※5}	701.6～ 1,570.0 万個体 ^{※6}		
	アサリ生産量			100トン	11トン	20トン	30トン	p 45

※1 現状値については、第二次計画策定時点の現状値として、平成26年度とする。

※2 各地点の年平均値の最小～最大

※3 各地点・各季の最小～最大

※4 7月と2月の最小～最大

※5 6月と11月の最小～最大

※6 5月と10月の最小～最大

海域	項目		目標値	現状値 ^{※1} (平成26年度)	モニタリング結果 (平成29年度)	モニタリング結果 (平成30年度)	参考ページ (括弧内は資料編)	
砂浜海岸	海浜地ごみ回収量		現状維持	702トン	454トン	1,346トン	p 5 0	
	ラブアース・クリーンアップ参加者数		現状値より増加	36,682人	44,415人	45,476人	p 5 0	
	水浴場水質判定	遊泳期間前	水質A以上 : 全地点	5地点/5地点	5地点/5地点	1地点/5地点	p 4 9	
		遊泳期間中	水質A以上 : 全地点	1地点/5地点	4地点/5地点	1地点/5地点		
百道浜来客数		現状値より増加	121万人	163万人	160万人	p 5 0		
浅海域	貧酸素水塊	貧酸素水塊発生地点数 (底層D0: 3.6mg/L以下)	現状値より縮小	12地点/16地点	15地点/16地点	12地点/16地点	p 5 7 ~ 6 3 (p 4 4 ~ 4 8)	
	底生生物	種数	現状維持	5~30種 ^{※7}	10~39種 ^{※7}	15~41種 ^{※7}	p 6 4 ~ 6 8 (p 4 9 ~ 7 2)	
		個体数		355~ 6,291 個体/m ² ^{※7}	546~ 12,826 個体/m ² ^{※7}	1,648~ 13,271 個体/m ² ^{※7}		
		湿重量		2.2~ 147.68 g/m ² ^{※7}	9.93~ 142.06 g/m ² ^{※7}	43.20~ 190.96 g/m ² ^{※7}		
	アマモ場で生息する稚仔魚等	種数 (総出現種数)	能古島	現状維持	13種 (32種) ^{※8}	28種 (32種) ^{※9}	16種 (38種) ^{※9}	p 7 0 ~ 7 5 (p 7 3 ~ 8 3)
			志賀島		21種 (36種) ^{※8}	25種 (34種) ^{※9}	26種 (47種) ^{※9}	
個体数 (総個体数)		能古島	約 180個体 (約 770個体) ^{※8}		約390個体 (約670個体) ^{※9}	約230個体 (約1,100個体) ^{※9}		
		志賀島	約1,000個体 (約1,400個体) ^{※8}		約260個体 (約560個体) ^{※9}	約5,200個体 (約6,000個体) ^{※9}		
港海域	浮遊ごみ回収量		現状維持	172トン	65トン	115トン	p 7 9	
その他	魚類		稚仔魚・成魚がいずれも継続して確認	魚類を確認 ^{※10}	稚魚と成魚を確認	稚魚と成魚を確認	p 2 7, 8 0	
	カブトガニ		連続した世代が継続して確認	連続した世代を確認	連続した世代を継続して確認	連続した世代を継続して確認	p 8 1	
	アサリ		幼生が継続して確認・稚貝と成貝の個体数が増加	幼生を確認	幼生を継続して確認 稚貝と成貝の個体数は昨年度の夏季以降に減少したものの、平成29年度は個体数が回復	幼生を継続して確認 稚貝の個体数は平成30年7月豪雨により大きく減少したものの、成貝は多めの数で維持	p 8 2	

※7 貧酸素発生地点における各地点・各季の最小～最大

※8 全ての調査月で確認された総種数・総個体数

※9 引網回数を現状値より増やして確認された総種数・総個体数

※10 アマモ場周辺での結果（稚仔魚・成魚の区別は不明）